

PTA あきた



(1)PTAあきた

2012.12.14 No.120

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com



～みんなで育てる 秋田の子ども～



大会特集号



読書活動の推進と 防災を学んだ仙北大会

仙北大会は秋田県の児童生徒の読書活動を推進する事業とタイアップした基調講演と分科会を設け、さらには防災教育を取り上げた分科会で、それぞれが「いのちとところ」をテーマにした内容は、参加会員に大きな感動を与えました。

情報交換会は紅葉に負けず、熱く燃えて夜の更けるまで盛り上がりました。

以下、大会特集号として県大会、全国大会、東北大会を報告します。

平成24年度 第38回 秋田県PTA研究大会 仙北大会 Senboku Rally

基調講演

演題

「本はいつもきみたちの味方です」

昔は、作家ではなくマンガ家になりたかったという岡田先生。

地方出版社で出した「プロフェッサーPの研究室」は『月刊神戸っ子』で連載してきた人気作品のベスト版で、ちょっとニヤリとする大人向けのマンガで出版界にデビューしたとのこと。

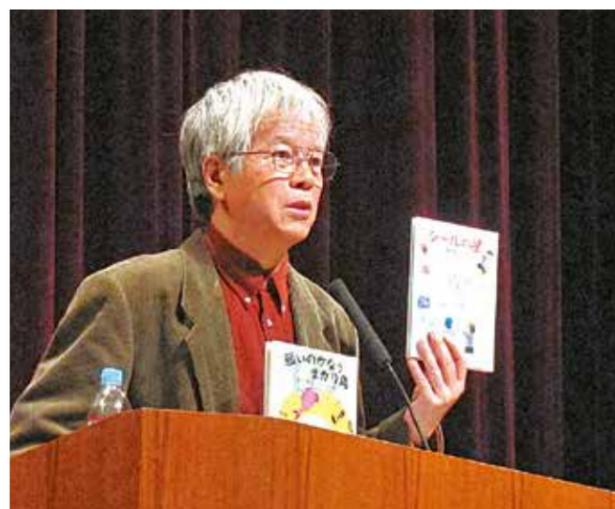
先生は関西弁の口調で、ユーモアたっぷりに会場の笑いを誘い、やさしく、小学生の子どもたちを前に話すようなおらかさはやはり学校の先生でした。



「図工準備室の窓から」

図工準備室は不可避免的に雑然としてくる。とするなら、良い感じの雑然でありたい。それは不思議に満ちた雑然というのである。図工準備室には、針金や紙粘土で作った小さな人や動物、風船、2メートルもある蛇、紙工作などがいっぱいあって年々増えていく。ただ置いてあるのではおもしろくない。もしかすると命がやどっているのではと思わせた。おもしろそうなものがいっぱいありそうだ。入ったら迷ってでられなくなりそうだと思う方向を目指した。

うす暗くした部屋には、保健室で使わなくなった電気スタンドをもらい受け、スタンドを取り外してあちこちにぶ



おかだじゅん
講師 岡田 淳氏
児童文学作家

Profile

1947年兵庫県に生まれる。神戸大学教育学部美術科卒業。図工専任教師として小学校に38年間勤務。主な作品に「放課後の時間割」(日本児童文学者協会新人賞)「学校ウサギをつかまえろ」(同協会賞)「雨やどりはすべり台の下で」(サンケイ児童出版文化賞)「扉のむこうの物語」(赤い鳥文学賞)「こそあどの森の物語」シリーズ(野間児童文芸賞)等。他に絵本「ヤマダさんの庭」(BL出版)マンガ「プロフェッサーPの研究室」(17出版)エッセイ「図工準備室の窓から」(偕成社)など多数。

ら下げた。暗くなると想像力の育つ余地が生まれる。明るすぎると物語は生まれにくい。

のぞきこんだ子どもたちが、こんな部屋がほしい、ここに住みたいなどと言ってくれてうれしかった。

子どもの頃に読んだ本に「ドリトル先生」がある。シリーズのどれかわからなかったが、ある場面だけを鮮やかに覚えていて、「ドリトル先生」はその記憶という状態が続いていた。それは、少年がドリトル先生と出会い、先生の家の台所で服を乾かし、肉を食べると言う場面である。

図工の先生になって何年もたち、読み返してみても驚きました。その場面にはさし絵がなかった。記憶の中には構図まできちんとあって、肉汁が滴っていたのに、本の中にはそれを示唆する言葉がありませんでした。

改めて読むとそれは物語の始まりのエピソードのひとつにすぎず、この後物語の中心的な航海に乗り出すのだが、僕にとっては一番いいシーンのように思えた。

僕は記憶の部屋の日当たりの良いところに置いたにちがいない。記憶の部屋では色あせず、むしろ育った。つまり、さし絵がつき、肉汁が滴り落ちた。それが、準備室を不思議ですてきな所にしたい気持ちと間違いなくつながっている。

僕が子どもたちにとってドリトル先生になっていたかと問われると自信はないけれど、図工準備室のどこかの戸棚を開けると、そこはドリトル先生の台所で、ドリトル先生と



少年が僕をむかえてくれる、そう思うのである。

人生は生きるに値する、人は信頼できるという感覚をドリトル先生の台所が育て、支え、応援し続けてくれたのだと思えるのです。

多くの子どもたちも本を読んだ「誤読」がいっぱいあるかもしれない。それでも良いのです。「そんなことを思ったの」「そんな理解の仕方もあったの」と認めてあげることが大切です。たとえ「誤読」でも、それが子どもたちの心を育てる種になります。大きくなって読み返す時、正しい意味を理解するまで見守っていただきたいと思います。

現実世界は良い事ばかりではないけれども、ドリトル先生のように人間の優しさに触れて、それを素直に受け止め

る気持ちを育て、更にもう一つの世界が自分を成長させてくれる。岡田先生は生い立ちの話などを交えながら、人を信じること、一歩進む勇気を持つことを教えてくださいました。そして最後に「本は幸せな出会いにつながり、味方になります」と結ばれました。

さらに、「カメレオンのレオン」「2分間の冒険」「夜の学校で」など著書を手にしての楽しい解説でした。夢がヒントになってできた物語、不思議の疑問がふくらんでできたお話等々、ファンタジックで心がほっと温まる読書への案内でした。

講演終了後の書籍販売とサイン会では多くの参加者が列をつくり、ひとり一人と言葉を交わしていただき、カットとサインをもらった本を胸にかかえての家路になりました。



平成24年度 表彰一覧



文部科学大臣表彰

鹿角市立花輪小学校PTA
横手市立金沢中学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

■団体
北秋田市立鷹巣中央小学校PTA
美郷町立金沢小学校PTA

個人

北林 亘(県PTA連副会長)
畠山 周(県PTA連副会長)
小林 祥子(県PTA連副会長)
鈴木 敏夫(県PTA連副会長)

東北PTA連絡協議会会長表彰

■団体
鹿角市立八幡平小学校PTA
五城目町立馬場目小学校PTA
男鹿市立男鹿東中学校PTA
秋田市立御野場中学校PTA
秋田市立明德小学校PTA
秋田市立金足西小学校PTA

個人

山脇 精悦(大館・北秋田PTA連合会前会長)
相沢 純一(能代市立能代第二中学校PTA副会長)
佐藤 吉則(由利本荘市立鳥海中学校PTA会長)

大山 肇浩(仙北市立神代小学校PTA前会長)
齋藤 伸二(横手市PTA連合会前会長)
佐藤 重之(湯沢雄勝PTA連合会前会長)

秋田県PTA連合会会長表彰

■団体
鹿角市立末広小学校PTA
大館市立扇田小学校PTA
五城目町立馬場目小学校PTA
男鹿市立男鹿南中学校PTA
にかほ市立上郷小学校PTA
美郷町立金沢小学校PTA
横手市立十字第一小学校PTA
湯沢市立山田中学校PTA

個人

児玉 安広(鹿角市立花輪北小学校PTA前会長)
岩谷 哲(大館・北秋田PTA連合会前副会長)
石垣 博隆(大館・北秋田PTA連合会前副会長)
大柄 均(能代市山本郡PTA連合会前常任委員)
田巻 正彦(能代市山本郡PTA連合会前常任委員)
小野 千春(湯田市・南秋田郡PTA連合会前副会長)
佐藤 信子(男鹿市PTA連合会前副会長)
立花 美香(秋田市PTA連合会前副会長)
益子 和秀(秋田市PTA連合会前副会長)
菅生 努(秋田市PTA連合会前副会長)
渡部 羊三(秋田市PTA連合会前副会長)
宮本 弘樹(秋田市PTA連合会前副会長)

石塚 伸六(秋田市PTA連合会前副会長)
伊藤 順一(由利本荘市PTA連合会前会長)
畠山 知也(由利本荘市立東由利小学校PTA会長)
鈴木 真(にかほ市PTA連合会元会長)
加藤 実(大仙市PTA連合会元会長)
大友 博康(せんぼくPTA連合会前会長)
太田 克(仙北市PTA連合会前会長)
柴田 幸雄(横手市PTA連合会元会長)
三浦 武夫(湯沢雄勝PTA連合会前実行委員)

秋田県PTA広報紙コンクール表彰 入選

■小学校の部
秋田市立旭北小学校PTA 「KYOKUHOKU」
秋田大学教育学部附属小学校PTA 「こむらさき」
秋田市立日新小学校PTA 「あしあと」
秋田市立勝平小学校PTA 「かつひら通信」
秋田市立飯島南小学校PTA 「飯南」
にかほ市立金浦小学校PTA 「わんとらう」

■中学校の部
大湯村立大湯中学校PTA 「葦のほとり」
男鹿市立男鹿東中学校PTA 「ひがし」
秋田市立桜中学校PTA 「桜」
秋田市立勝平中学校PTA 「松籟」
秋田市立太平中学校PTA 「穂なみ」年1回発行

※年1回発行を除く小中学校は
全国コンクールに推薦しました。

第1分科会

大震災や津波の経験から、 防災教育の重要性を

講師 山形守平氏
岩手県立大槌高等学校長



東日本大震災から1年7ヶ月ですが、これまでが長かったのか短かったのか振り返る余裕がなかったというのが本音です。

今年、県立学校長会で震災の記録集を作ることになりました。私は前任校の宮古高校の被災から学校再開までと大槌高校の状況を依頼され、この夏休みに初めて震災と向き合いました。

現在は大槌高校で、町は大変な被害を受けました。そこに支援団体や高校の生徒会が交流を求めてきます。「今どんな支援が必要ですか」と聞かれると生徒たちは「現地を見に来て、この現状を多くの人に伝えてほしい。震災のことを忘れないでほしい」と言います。これが偽らざる声だと思います。

大震災はマグニチュード9.0で、世界で4番目の大きな地震でした。関東大震災が7.9、昭和三陸地震が8.4、阪神大震災が7.0でした。

3月11日、岩手県内の中学校では翌日に卒業式をひかえ、予行練習で生徒たちは学校におりました。中学校では学校にいた生徒はみんな助かっています。

宮古高校のお話をします。3月9日に高校入試があって、次の日が採点などで生徒たちが2日間休んだ後の出校日でした。2時46分、授業中でした。長い揺れで、船で揺られているような感じでした。すぐに停電になって、防災無線やラジオで大津波警報が流れ、尋常ではないと思いました。

3年生が卒業して、2年生が3階、1年生が4階におりました。私は屋上に行きました。川がどんどん引いていきました。地域住民警報にもかかわらず歩く人、川を見に行く人がいました。そのうちに津波の第1波、第2波が襲い、真っ黒な波の中に市役所が飲み込まれ、船が空中に上げられ現実では考えられない光景が続きました。

津波が落ち着くと保護者が向かえに来ました。生徒全員を残しても食べる物、水などが不足するので、帰路の安全を確認して引き渡しをしました。暖房がないので、暗幕を出しました。ロウソクとか登山部のランタンとかも出しました。22時には定時制で使っている厨房のガス釜でおにぎりを作りました。1年生124名、2年生130名、住民200人ぐらいでした。翌日には生徒が85名、住民がいましたが、高校は避難所でないため支援物資、救援物資が届かないとのことで、住民の方々には小学校へ移動してもらいました。

3日目には51名、4日目には5名の生徒になりました。5名の保護者や親戚を捜して引き渡しました。私の教員住宅は1階はやられていましたが2階の荷物は無事でした。5日以降、生徒の安否確認を開始しました。8名が確認できませんでしたが、最終的には全日制は全員の無事が確認され、定時制の1名が亡くなってしまいました。

宮古市内の高校が同時にスタートができるようにすれば、中学生も安心できると思い話し合いをしました。比較的被害の少なかった宮古高校で市内の高校の合格発表と合格通知の交付、関係書類の受け渡し等々、市内の先生が集まってすることにしました。

3月25日には終業式をしました。親を亡くした生徒が5名おりました。

宮古市内の高校が歩調を合わせて、4月27日例年より3週間遅く新任式、始業式をやりました。入学式にはみんな来しました。宮古管内の中学3年生は全員無事でした。

大震災で、ほとんど高校の制服がありませんでした。中学校の制服での出席で、今までにはない入学式でした。5月9日から本格的な授業が始まりました。

大槌高校は高台にあるのですが、大津波の襲来で通学路が瓦礫で通れなくなりましたが、それでも生徒、教職員、住民を含めて500人の避難所となりました。

大槌町の役場が壊滅して機能はマヒしていましたが、自衛隊などが支援にきて避難所の生活が確保されました。生徒たちはプールからトイレまでバケツリレーをし、冷たい水で食器を洗ったということでした。

大槌高校は300人ぐらいの生徒です。不明者は日ごとに少なくなりましたが、6名が犠牲になりました。

電気が通ってボイラーを使えるようになって、避難住民の方々に体育館では寒いので教室に入ってもらいました。そして学校が始まる時にある教室の黒板に「大切な教室を使わせてくれてありがとうございました。チューリップ組一同」とありました。その教室は緑幼稚園の避難所として使われておりました。

4月22日は入学式でした。大槌町は人口1万5000人で、死者、行方不明者1400人です。住宅4800戸中3700戸、77%が全半壊です。大変な状況で、ある物を着ただけの入学式でした。

岩手県教育委員会では震災・津波を乗り越え、未来を創造していくため、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担う子どもたちの育成するのが教育の使命として、災害の知識や身の守り方、自己の在り方、復興における役割、地域との関わり方や創造など様々な要素を組み入れた岩手教育復興プログラムを作り、各学校で取り組み始めています。

私は、想定外のことまでも意識した危機管理が大事だと思います。発生する可能性の低い事態まで想定する予見性・先見性が必要であると。停電になって県からも連絡が入らない、そのような状況で情報が不十分な中でも次々と決断していかなければならない。そういうスピードとタイミングが大事だろうと思います。

防災教育のポイントは、想定にとらわれないことです。自分自身の判断で適切な行動のできる生徒を育てる。他者を思いやり、コミュニケーションをとって解決策を見出していくこと。知識を知恵に変える力、生き抜く力の育成が学校現場に求められています。生きる力だけではなく、今を生き抜く力を付けてやる必要があります。

第2分科会

子どもの読書活動推進 にかかわる分科会

- ①仙北市立角館小学校 読み聞かせボランティア 佐藤 滋子氏
 - ②大仙市立花館小学校 教頭 高野 一志氏
 - ③にかほ市立平沢小学校 教諭 村上 昭子氏
 - ④仙北市立総合情報センター学習資料館 水平裕見子氏
- コーディネーター 秋田県企画振興部総合政策課 泉民読書推進班 富士盛泰子氏



富士盛 秋田県では今、読書活動の推進を図っており、この分科会の進行を務めることになりました富士盛と申します。最初に角館小学校の発表をお願いします。

佐藤 私は角館小学校で図書ボランティアグループ「クローバー」の一員として活動しています。子どもたちの楽しみながら話を聞いてくれる姿が好きで続けております。メンバーは13名です。

主な活動としては、週2回の朝自習の時間に1年生の教室に向いて読み聞かせをします。月1回の全校読み聞かせは、20分の長休み時間「さくらタイム」に行きます。他に新しい本のカバーかけや修理などを週1回行っています。

学校では週3回、15分間の読書の時間を設定し、学級文庫や図書室の本を借りて一斉に読んでいます。

仙北市では「学校図書環境整備事業」としてコンピューターシステムの導入による図書管理の簡易化を図り、学校図書館支援員の派遣など図書整備にも力を入れています。

富士盛 次に、花館小学校の読書活動推進の取り組みについてお願いします。

高野 本校のPTA活動は積極的に連帯感が強く、地域の教育力も高いと思います。

図書館の蔵書は1万2千冊程です。大仙市からは毎年「ふるさと納税文庫」ということで、通常の予算では買えないような図書購入費に充てる分もいただいております。

図書館ボランティアも平成11年度の文部科学省の研究校以来根付いております。PTAの活動では、昨年度「ノーゲーム 親子ふみの日」を設定し、90.5%の実績を示しました。大人がきちんとやれば子どももやる、大人が楽しくやれば子どももやる。家の中で父が母が家族が本を読み、習慣になれば良いのではないのかと思っています。

富士盛 続いては、平沢小学校の事例発表をお願いします。

村上 平沢小学校は昨年度、文部科学省の子ども読書優秀実践校として表彰を受けました。その実践を紹介したいと思います。学校の図書館は「ハッピースマイル図書館」といいます。児童会の公募で決めました。私は図書館担当として子どもたちの願いを受けて協働する図書館を目指しています。図書の蔵書管理はパソコンで、にかほ市内の小・中学校10校と図書館3館をつないでいます。相互貸借が可能です。各学校には司書補助員が配置され、環境整備、蔵書管理等子どもたちのニーズに答えています。

子どもたちは1年生から読書ファイルを作成し、図書館に関する学習資料を綴じ込んで6年間継続して活用できるようにしています。学年の必読書等がファイルされています。

夏休みには親子読書の取り組みをして、5年目になり96%の実施率で親子の恒例の行事となりました。

読み聞かせのボランティアの会員は17名で、月2回各学級で行っています。

図書修理ボランティアは今年から活動を始め、21名の会員です。良く読まれる本ほど傷みがひどく、修理された本は再び命をもらい子どもたちに読書の喜びを与えています。

富士盛 最後は仙北市学習指導官の水平さんです。

水平 仙北市では読書推進の基盤として平成22年度、公共図書館、公民館図書室を整備・連携するため図書管理システムを導入し、相互の貸借を可能にしました。

平成23年度には学校図書館環境整備事業により、小・中学校に図書管理システムと学校・公共館連携横断検索システムが導入され、学習資料館と小・中学校がネットワークで結ばれました。

学校図書管理システムによって、全小・中学校の蔵書データが一元管理ができるようになりました。学校・公共館連携横断検索システムは各学校と学習資料館との同時検索を可能にし、家庭でも検索ができるようになりました。今後は公共図書館が学校図書館を支援する形で連携を深めることが必要だと思います。

富士盛 先程からの事例発表にもありましたが、小さい子どもの頃からの習慣化が大切ではないかと思っています。親子のスキップを再認識・再確認をするうえでも、読書活動が良い方向に結びつくのではないのでしょうか。今後とも、読書推進についてご理解、ご協力をいただきたいと思います。皆様、本日はありがとうございました。



第60回

日本PTA全国研究大会 京都大会

いのち ころろ ゆめ ～伝えよう つなげよう 育もう～

去る8月24日(金)25日(土)の両日、日本の伝統文化を受け継ぎ守り続ける古都京都の地に、8000名をこえるPTA会員の参加で開催された大会の概要をお伝えします。

会長あいさつ

絆が生み出す可能性 子どもたちに生きる力を

PTA活動は地道ですぐには成果があらわれないものが多く、活動の意義を認識しにくい面があるかもしれません。しかし、PTA活動を通して子どもたちが笑顔を見せてくれたなら、それは、何もしない時よりも少しだけ笑顔の多い明るい未来を築いたといえると思います。しかも、全国各地でたくさんの方々が子どもたちのために活動してくれているのですから、子どもたちの健全育成に対する貢献度は、計り知れないほど大きなものだと考えています。この大会を通して、全国のPTAの仲間との存在とその絆が生み出す可能性の大きさを五感で感じていただけたら幸いです。

未曾有の災害に見舞われた究極の状況で、多くの人が見せてくれた勇気や思いやりのある行動、その後の復興に取り組む力強い姿は、まさに生きる力を子どもたちに示してくれるものだと感じています。本大会が子どもたちの生きる力を養う一助になればと思います。

記念講演

「スマイル・レボリューション」 加藤登紀子氏

「百万本のバラ」を歌いながらの登場に会場の参加者は舞台に引き込まれ、歌手、女優、そして今は祖母としての自分を見つめ、故郷や自然に思いを馳せ、歌を交えた講演は心に響くものでした。

生い立ちとふるさとへの思い、震災支援で訪れた東北での出会い、親が子に望む思いと噛み合わない子どもの心、太陽のように暖かく子どもを見守って欲しいというメッセージなどを語り、最後に「スマイル・レボリューション」子どもたちの心の窓を開けさせてあげるために、大人が微笑むことで一歩を踏み出す力を与えたい、そんな思いを伝えたいと結ばれました。

分科会報告

第1分科会(組織・運営)

絆 ～見直そう 親子の絆 親同士の絆～

絆をテーマに実践発表とパネルディスカッションが行われ、これからのPTAは先生と子ども、親と子どもとの縦関係と友達同士の横関係だけではない地域ぐるみで子どもたちを見ていかなければならないことが提案されました。

基調講演の講師は「尾木ママ」こと尾木直樹氏により「いじめは犯罪」の持論をふまえ、ユーモアを交えいのちを守るために学校と共同参画によるPTA活動の大切さを展望されました。

第2分科会(家庭教育)

おうち私のぼんそうこう

「サザエさん」のマスオさん役の声優増岡弘氏による基調講演で、家族の大切さ、言葉の大切さが語られ、時折、マスオさんや「アンパンマン」のジャムおじさんが登場し、和やかな会場になりました。

実践発表の後、参加型の6つの小分科会が設定され、どの分科会も初顔合わせとは思えない程の語り合いと笑い声で盛り上がり、エンディングは参加者全員による「ピリブ」の大合唱で締めくくられました。

第3分科会(学校教育)

学校の充実と発展にむけて

～コミュニテイスクールの役割～

第4分科会(広報活動)

姿の見えない伝達の闇

～人として、教育をみつめる～

第5分科会(地域連携)

一人ひとりの子どもが

光り輝く地域を目指して

～今こそ校種・地域を越えて

みんなでつながろう～



第44回

東北ブロック研究大会 酒田・飽海大会

築こう笑顔溢れる未来を 育もう公益の心を つなごう家庭・学校・地域を



平成24年9月8日(土)・9日(日)標記大会が、1800余名の参加を得て開催されました。大会初日は7分科会に分かれ、各研究内容、テーマごとに基調講演、パネルディスカッションが行われ、2日目には表彰式と記念講演等の全体会で次期開催地の福島県からのあいさつで締めくくられました。

なお、二ツ井小学校PTA会長の工藤晃氏、勝平小学校PTA副会長の伊藤千加子氏がパネリストとして登壇し、それぞれの意見を述べて分科会を盛り上げました。

両氏の感想を交えて大会の概要を報告します。

第1分科会(組織・運営)

統廃合にみえる組織づくりと運営の原点

基調講演は酒田市の教育長である石川賢久氏により「新しい学校づくりは新しい地域づくり」の演題で、酒田市における統合の進め方について話されました。対象となる住民との事前の十分な話し合い、合意後は自治会、PTA、教職員等による準備委員会を設立して統合の課題解決にあたっているとのことでした。

続く討議では本会前副会長の工藤晃氏を含めた3人のパネリストから統合の実態とその後のPTA組織と運営の事例が発表され、統合の話が出た頃の不安、組織づくりの苦勞、統合後の課題解決の方法等活発な質問と意見交換が続きました。

第2分科会(研修活動)

参加意識と実践力を高める研修活動と広報活動

第3分科会(健全育成)

地域ぐるみで高める教育基盤

第4分科会(家庭と小学校教育)

家庭の果たす役割と小学校教育

基調講演は後藤敬子氏により「かけがえのない命のために、今、私たちにできること」と題して、相談窓口を通して出会った子どもたち(輝きたいのに輝けなくて苦しんでいる命)を紹介し、この子どもたちのためにできることを考えようと結ばれました。続くディスカッションでは、「親児(おやじ)の会」の立ち上げと活動について、地域を知り、好きになり、地域のために行動する良い循環を作り出す取り組み、そして読み聞かせグループの活動が発表され、参加者と共に大人ができること、大人の役割などが話し合われました。

第5分科会(家庭と中学校教育)

家庭の果たす役割と中学校教育

「郷土への愛と誇りをはぐくむ」と題した、小学校長 梅木 仁氏による基調講演の概要は、次のようです。少子高齢化と過疎化が進む中で、地域の賑わいが寂しくなっています。子どもたちと触れ合うだけで心が和む、子どもたちは大人の元気を引き出す「魔法使い」です。だからこそ地域行事や地域文化の伝承活動に参加を促してきました。一方子どもたちは、多くの人々に必要とされ、認められることで「確かな大人」に成長するのです。より積極的に子どもたちの学びの場を地域に広げ、理解し、愛し、感謝し、生きる誇りを育てていきたいと実践を紹介しながらの講演でした。

第6分科会(健康・安全教育)

地域総ぐるみの安全環境づくり

基調講演は、小学校元PTA会長の伊藤利明氏により「みんなの役に立ちたい、やさしいまちづくりー見守り隊はなぜ広まった、そして見てきたこと」と題し、当初無関心で非協力的だった地域やPTAが、なぜ変わったのか。「人の役に立ち、感謝される喜び」を味わう事とその単純な仕掛けづくりとその成果を述べていただきました。

本県からのパネリストの伊藤千加子氏は、勝平小学校で取り組んだPTA、学校、地域が一体となったパトロールや巡回等地域の安全環境づくりの活動を報告し、続く討議にも積極的に参加し、意見交換の姿が印象的でした。

第7分科会(特別課題)

PTAの公益性

パネリスト 参加者から感想

学校統廃合と地域は

二ツ井小学校PTA会長 工藤 晃



PTA東北大会で第一分科会のパネリストの大役をいただきました。準備段階より、様々な方々と知り合え、その考え方や、ご苦労にふれあえた事に感謝しております。当日の緊張感はこの上なく、ステージの上で、文字通り滝の様に流れ出る自分の汗に辟易しました。学校統合は、各地域の事情があり、その一つ一つを大切丁寧に解決し、新しいPTAの運営もそれを念頭に置く事が大事だと実感できました。

自身、流れるままにPTAの活動に協力しているうちに、たまたまのタイミング(二ツ井地区小学校統合初年度)で、役員の職を仰せつかりました。統合に至る複雑極まりない各方面との調整、実行は前任の方々の大変な労苦の賜物であり、その後を受け継がせていただき、敬意をもって活動しております。

そうした中で実感したのは、地域から、百年以上続いた学校が消えた、そこに住む人々の喪失感と、子どもの成長に必要な、心地よい作用をする地域のpowerが、潜在してしまった事です。

学校統廃合を地域との関係を再構築するchance!ととらえ、統合後の微調整が必要な学校、PTA運営と平行して、この先の百年につながる地域との繋がり礎を造る事が重要と感じています。

パネリストとして、実に力不足で周りの方々に助けて頂きました。この経験に感謝してPTA活動に励んでいきたいと思っています。

地域とともに

勝平小学校PTA副会長 伊藤千加子



東北ブロック研究大会 酒田・飽海大会の第6分科会「健康・安全教育」にパネリストとして参加させていただきました。酒田南高等学校を会場に「地域総ぐるみの安全環境づくり」という研究内容で行われました。

最初に基調講演は、伊藤利明さんの見守り隊のお話でした。無関心・非協力的なPTA会員が多かった中で、強制的だけれども強制ではなく、都合が悪い人がいても「恨みっこなし」というあいさつ運動から始め、地域の人たちをも巻き込んでの「見守り隊」に発展していった経過は、なるほどなと感心しました。

その後、パネルディスカッションでは、仙台市立四郎丸小学校の相沢香織先生は「お母さん先生」が学級に入る事により、子どもたちが安心して学習活動に取り組んでいる様子について、酒田市立第一中学校のPTA前会長の今井司さんは、統廃合によってできた新しい中学校での土台作りについてお話して下さいました。そして、私は地域や保護者による「防犯パトロール」防犯体制についてお話しいたしました。

どのお話からも、学校だけではなく、保護者や地域と一体となって活動していくことの大切さというのを感じさせられました。今現在、子どもたちは学校・保護者・地域から守られている環境にあります。今後は、その中であって子どもたち自身が自分の身を守り、自立した生活を送れるよう大人が導いていくことも必要なのではと思いました。



平成24年度 秋田県家庭教育 & 早ね早おき朝ごはん フォーラム

開催される

11月17日(土)県生涯学習センターを会場に、秋田県教育委員会との共催事業として標記フォーラムが開催されました。

テレビ、雑誌で知られる料理研究家の土井善晴氏による基調講演は「食生活は家族の未来への投資」と題し、ご飯、汁物、漬け物の「一汁一菜」を例に「シンプルだが、調理時間が短く、最低限の栄養はとれる」と品数よりも栄養のバランスが重要であることを説かれました。

また、家庭で手間や時間がかけられない時でも愛情を持って料理を作り、家族を思っていることを伝える必要があると強調されました。

引き続き3分科会では「家庭教育支援」「早ね早おき朝ごはんの実践」「情報ネット対策」についての事例発表と意見交換が行われ、参加者の多くが生活習慣の大切さを改めて感じながら閉会となりました。



携帯電話からも会員登録OK!ますます便利に!

えきねっと

会員募集中 **会員登録 無料**

www.eki-net.com

「えきねっと」なら
パソコンや携帯電話で
きっぷの申し込みが
できてとっても便利

「えきねっと」なら
乗車日の1ヵ月+1週間前に
指定席の事前購入登録ができます。

JR東日本
秋田支社

日新火災

お客さまひとりひとりと、顔の見えるおつきあい。

日新火災は、ひとりひとりのお客さまとしっかり向きあう「顔の見えるおつきあい」で、お客さまのご期待にお応えしたいと考えています。

お客さまに最も身近で誠実な損保を目指して

秋田県PTA安全互助会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

秋田サービス支店 〒010-0001 秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255

安全互助会からのお知らせ

忘れていませんか!
けがが治ったら保険金請求の手続きをお願いいたします。

県P連からのお願い

「書き損じはがき」抛出運動への参加を
本年度も年賀はがきの時節を中心に「一人1枚以上の抛出運動」を実施いたします。
諸活動を通して、子どもたちへの還元を考えておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

雪が舞いはじめた外を見ながら、夏からの半年を振り返っている。
酷暑は容赦なく例年よりも長く続いた。7月は本会初めての事業として「PTAフェスタ」を開催し、8月、京都での全国大会、9月、酒田での東北大会、10月には仙北大会、さらに11月は県教育委員会との共催で「フォーラム」を実施した。
子どもたちへのネット対策が急がれている。親が学ばないと子どもへの危険度が高まる。研修の機会に是非参加していただきたい。
来るべき年が子どもたちに、会員の皆様に良い年でありますように。(N)